イスラームの英雄

第 26 巻

征服王メフメト 2 世

コンスタンティノープルを開いた者 — クルアーン、真正なハディース、歴史書に基づいて



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

イスラームの英雄

第 26 巻

征服王メフメト 2 世

コンスタンティノープルを開いた者 — クルアーン、真正なハディース、歴史書に基づいて

وَأُخْرَىٰ تُحِبُّونَهَا ۖ نَصْرٌ مِّنَ ٱللَّهِ وَفَتْحٌ قَرِيبٌ ۗ وَبَشِّرِ ٱلْمُؤْمِنِينَ ١٣

「またあなたがたが好む，外（の恩恵）を与えられる。アッラーの御助けと，速かな勝利である。だからこの吉報を信者たちに伝えなさい。」

戦列章 61:13

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

信者たちに、ご自身からの助けと近い勝利を約束されたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たち、そして善をもってその道に従った人々、とりわけコンスタンティノープルを開いた征服王メフメト2世に祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『イスラームの英雄』第26巻は、征服王メフメト2世の生涯を語ります。ルメリ・ヒサルを築き、船を丘越しに金角湾へ運び、西暦1453年にコンスタンティノープルを開いた若きスルタンです。「最良の指揮官」のハディースの伝承経路の弱さ、アヤソフィアの問題、兄弟殺しの法も含め、その物語は典拠について正直に語られています。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

© 2026年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間や動物は描かれていません。描かれているのは 1453 年春の夜明けの***ボスポラス海峡***で、柔らかな金色と桃色の空、丘の斜面の赤いチューリップ、糸杉や松の木が見えます。

左には***ルメリ・ヒサル***の城塞がそびえています——厚い灰色の石壁と大きな円塔——海峡を押さえ、コンスタンティノープルへの援軍を断つために、1452 年にスルタン・メフメトが築いたものです。

静かな水の向こうには***コンスタンティノープル***の町が広がります。朝もやの中にビザンツの城壁と***アヤソフィア***の大きなドーム（1453 年以前のようにミナレットはありません）。***オスマンの帆船***が岸の近くに停泊し、丘の上の***白い天幕***から細い煙が立ちのぼっています——町が開かれる前のひとときを思い起こさせます。

下部の***濃紺の帯***は***細い金色の線***で縁取られ、著者名が記されています。『イスラームの英雄』のすべての表紙をそろえるため、第1巻から第25巻と同じデザインです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

征服王メフメト 2 世 — *はじめに*

1. 征服王メフメト 2 世とは誰か — *歴史書と伝記*

2. エディルネのムラトの子 — *トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』；『サヒーフ・ブハーリー』2810*

3. 二度の即位 — *トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』*

4. コンスタンティノープルについてのハディース — *『サヒーフ・ブハーリー』2924；『ムスナド・アフマド』；『サヒーフ・ムスリム』*

5. 城壁の下のアブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー — *歴史書と伝記*

6. ルメリ・ヒサル――海峡を断つ城塞 — *トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』；戦利品章 8:60*

7. ウルバンの大砲と艦隊 — *ドゥーカス『ビザンツ史』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』*

8. テオドシウスの城壁と金角湾の鎖 — *ニコロ・バルバロ『包囲戦の日記』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』；『サヒーフ・ムスリム』1742*

9. 丘を越えた船 — *ニコロ・バルバロ『包囲戦の日記』；ドゥーカス『ビザンツ史』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』*

10. ウルバトル・ハサンと殉教者たち — *オスマンの伝承；『サヒーフ・ムスリム』1909*

11. ヒジュラ暦 857 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月 20 日の夜明け — *ニコロ・バルバロ『包囲戦の日記』；ドゥーカス『ビザンツ史』；トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；戦列章 61:13*

12. アヤソフィア――事実と議論のあいだ — *トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』*

13. 町の人々への公正 — *クリトブロス『征服王メフメトの歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』；雌牛章 2:256；『サヒーフ・ムスリム』1827*

14. 兄弟殺しの法 — *メフメト 2 世の法令集；『サヒーフ・ブハーリー』6878*

15. イスタンブールの建設者、学問を愛した人、そしてその死 — *トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』*

16. 検討すべき物語と数字 — *典拠の検討*

17. 征服王の物語の典拠 — *表*

18. 人物・場所・年表 — *表*

19. 征服王メフメト 2 世についてのよくある質問 — *12 の質問*

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

20. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

征服王メフメト 2 世

8 世紀以上にわたって、東ローマ（ビザンツ）帝国の首都*コンスタンティノープル*は、ヨーロッパとアジアのあいだに堅く立ち続けていました。その三重の城壁は、ムアーウィヤの時代以来のムスリム軍によるものを含め、多くの包囲に耐えてきました。

ヒジュラ暦 857 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月 20 日（西暦 1453 年 5 月 29 日）の朝、この町はついに 21 歳の若いスルタンによって開かれました。第 7 代オスマン・スルタン、*ムラトの子スルタン・メフメト（ムハンマド）*です。彼はその後、*ファーティフ*（征服王、開く者）の称号で知られるようになりました。町はオスマン朝の首都となり、今日までイスタンブールとして知られています。

この電子書籍は『*イスラームの英雄*』シリーズの第 26 巻です。征服王の物語は、それまでの人物よりも豊かな史料に基づいています。包囲戦に参加したトゥルスン・ベイなどのオスマン年代記と、ニコロ・バルバロの日記や、ドゥーカス、スフランツェス、クリトブロスの歴史書などキリスト教徒の目撃者の記録です。すべての物語の典拠と等級を――有名な「最良の指揮官」のハディースの伝承経路の弱さ、伝説的な物語、アヤソフィアの問題、兄弟殺しの法も含めて――正直に示し、その教訓はクルアーンと真正なハディースに基づいています。

征服王の物語は、周到な準備、失敗のなかでの忍耐、そして誰も思いつかなかった道を試す勇気の物語です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

征服王メフメト 2 世とは誰か

彼はトルコ語で*ファーティフ・スルタン・メフメト*または*メフメト 2 世*として知られる、*ムラトの子メフメト（ムハンマド）*です。ヒジュラ暦 835 年ラジャブ月 27 日（西暦 1432 年 3 月 30 日）にエディルネでスルタン・ムラト 2 世の子として生まれ、ヒジュラ暦 886 年ラビーウ・アル＝アウワル月 4 日（西暦 1481 年 5 月 3 日）に亡くなりました。

彼は二度即位しました。一度目はまだ子どものとき（1444〜1446 年）、二度目は 30 年間（1451〜1481 年）です。そのあいだにコンスタンティノープルを開き、バルカン半島とアナトリアで国を広げました。

名前と称号

名前・称号	説明
メフメト（ムハンマド）	本来の名前。ムハンマドのトルコ語読み
ファーティフ	「開く者・征服王」。コンスタンティノープル開城後の称号
アブー・アル＝ファトフ	「征服の父」。年代記や公文書に見られる称号
メフメト 2 世	メフメトの名を持つ 2 人目のオスマン・スルタン（第 7 代）
カイセリ・ルーム	「ローマの皇帝」。町を開いた後に名乗った称号

教訓

大きな称号は大きな努力の後に来ます。「征服王」の名は受け継いだものではなく、準備と犠牲によって勝ち取られたものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

エディルネのムラトの子

歴史の注：王子の教育

メフメトは当時のオスマン朝の首都エディルネの宮廷で育ちました。オスマンの王子の慣習にしたがい、子どものころに養育係（ララ）の世話のもとアマスヤの総督として送られました。年代記によれば、はじめ彼は強情で勉強を好みませんでしたが、父は厳格な学者 ***モッラー・ギュラーニー***（アフマド・ブン・イスマーイール・アル＝クーラーニー）を送り、学ぶことを拒めば彼を打つことを許したといいます。

モッラー・ギュラーニーやほかの学者の教育のもとで、彼はクルアーンを暗記し、法学、歴史、数学、いくつかの言語を学びました。もう一人の師は、彼が深く敬った学者でありスーフィーの ***シャイフ・アクシェムセッディン*** でした。同時代のキリスト教徒の史料も、彼がいくつかの言語に通じ、アレクサンドロスやローマ皇帝の歴史に関心を持っていたと述べています。

伝承の等級： トゥルスン・ベイ、アーシュクパシャザーデ、ネシュリーのオスマン年代記や、ドゥーカス、スフランツェス、クリトブロス、ニコロ・バルバロなどビザンツやイタリアの目撃者の記録といった歴史書に、ハディース学者の基準による伝承経路なしで伝えられています。歴史として受け入れられていますが、真正なハディースのように典拠（フッジャ）として用いることはできません。

参照：

トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』；タシュキョプリュザーデ『ヌウマーンの紅花』。

彼を教えた学者たちは一つの大切な意図を植えつけました。名声や財産のためではなく、ただアッラーの言葉を最も高くするために戦うということです。

ハディース — サヒーフ・ブハーリー、No. 2810

حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ عَمْرٍو، عَنْ أَبِي وَائِلٍ، عَنْ أَبِي مُوسَى ـ رضى الله عنه ـ قَالَ جَاءَ رَجُلٌ إِلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ الرَّجُلُ يُقَاتِلُ لِلْمَغْنَمِ، وَالرَّجُلُ

يُقَاتِلُ لِلذِّكْرِ، وَالرَّجُلُ يُقَاتِلُ لِيُرَى مَكَانُهُ، فَمَنْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ قَالَ " مَنْ قَاتَلَ لِتَكُونَ كَلِمَةُ اللَّهِ هِيَ الْعُلْيَا فَهُوَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ ".

訳：

アブー・ムーサーは言った。ある男が預言者 ﷺ のもとに来てこう言った。「戦利品のために戦う男、名を挙げるために戦う男、自分の地位を見せるために戦う男がいます。誰がアッラーの道にあるのでしょうか。」 彼は言われた。 ***「アッラーの御言葉が最も高くなるために戦う者、その者こそアッラーの道にある。」***

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：スライマーン・ブン・ハルブ ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージ ← アムル・ブン・ムッラ ← アブー・ワーイル・シャキーク・ブン・サラマ ← アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、ハディース番号 2810。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： https://sunnah.com/bukhari:2810

教訓

偉大な指導者は、厳しく誠実な師によって形づくられます。幼いころからの教育が人生の方向を決めるのです。

二度の即位

歴史の注：ヴァルナとムラトの復帰

ヒジュラ暦848年（西暦1444年）、スルタン・ムラト2世はまだ12歳のメフメトに位を譲り、マニサに隠退しました。子どものスルタンを見たヨーロッパの諸王国は和平条約を破り、十字軍を起こしました。重臣たちの求めにより、ムラトは軍を率いるために戻り、1444年11月10日に***ヴァルナ***で十字軍を破りました。

エディルネでのイェニチェリの反乱（ブチュクテペ事件、1446年）の後、ムラトは再び統治し、メフメトはマニサに戻されました。メフメトが19歳で二度目の即位をしたのは、ヒジュラ暦855年（西暦1451年2月）にムラトが亡くなった後のことです。ヨーロッパの多くの人々は、彼を弱く経験の浅い若者だと思っていました。

伝承の等級：トゥルスン・ベイ、アーシュクパシャザーデ、ネシュリーのオスマン年代記や、ドゥーカス、スフランツェス、クリトブロス、ニコロ・バルバロなどビザンツやイタリアの目撃者の記録といった歴史書に、ハディース学者の基準による伝承経路なしで伝えられています。歴史として受け入れられていますが、真正なハディースのように典拠（フッジャ）として用いることはできません。

参照：

トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』；トルコ宗務庁財団『イスラーム百科事典』「メフメト2世」。

教訓

若いころの失敗は終わりではありません。エディルネでの苦い経験は、権力には権利だけでなく備えが必要であることを征服王に教えました。

© 2026年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

コンスタンティノープルについてのハディース

教友たちの時代から、ムスリムは預言者 ﷺ のいくつかのハディースのゆえに、コンスタンティノープルを目標としてきました。そのなかで最も真正なのは、「カエサルの町」についてのウンム・ハラーム رضى الله عنها のハディースです。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 2924 番

حَدَّثَنِي إِسْحَاقُ بْنُ يَزِيدَ الدِّمَشْقِيُّ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ حَمْزَةَ، قَالَ حَدَّثَنِي ثَوْرُ بْنُ يَزِيدَ، عَنْ خَالِدِ بْنِ مَعْدَانَ، أَنَّ عُمَيْرَ بْنَ الأَسْوَدِ الْعَنْسِيَّ، حَدَّثَهُ أَنَّهُ، أَتَى عُبَادَةَ بْنَ الصَّامِتِ وَهْوَ نَازِلٌ فِي سَاحِلِ حِمْصَ، وَهْوَ فِي بِنَاءٍ لَهُ وَمَعَهُ أُمُّ حَرَامٍ، قَالَ عُمَيْرٌ فَحَدَّثَتْنَا أُمُّ حَرَامٍ أَنَّهَا سَمِعَتِ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ " أَوَّلُ جَيْشٍ مِنْ أُمَّتِي يَغْزُونَ الْبَحْرَ قَدْ أَوْجَبُوا ". قَالَتْ أُمُّ حَرَامٍ قُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ أَنَا فِيهِمْ. قَالَ " أَنْتِ فِيهِمْ ". ثُمَّ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم " أَوَّلُ جَيْشٍ مِنْ أُمَّتِي يَغْزُونَ مَدِينَةَ قَيْصَرَ مَغْفُورٌ لَهُمْ ". فَقُلْتُ أَنَا فِيهِمْ يَا رَسُولَ اللَّهِ. قَالَ " لاَ ".

訳：

ウマイル・ブン・アル＝アスワド・アル＝アンスィーは、ヒムスの海岸に滞在していたウバーダ・ブン・アッ＝サーミトのもとを訪ね、そこにウンム・ハラームがいたと語りました。ウマイルは言いました。ウンム・ハラームは、預言者 ﷺ がこう言われるのを聞いたと私たちに語った。「私のウンマのうち、海で戦う最初の軍は、（楽園を）確かなものとした。」ウンム・ハラームは言った。私は「アッラーの使徒よ、私もその中にいますか」と尋ねた。彼は「あなたはその中にいる」と言われた。それから預言者 ﷺ は言われた。***「私のウンマのうち、カエサルの町を攻める最初の軍は、赦される。」*** 私は「私もその中にいますか、アッラーの使徒よ」と尋ねた。彼は「いいえ」と言われた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク・ブン・ヤズィード・アッ＝ディマシュキー ← ヤフヤー・ブン・ハムザ ← サウル・ブン・ヤズィード ← ハーリド・ブ

ン・マアダーン ← ウマイル・ブン・アル＝アスワド・アル＝アンスィー ← ウンム・ハラーム・ビント・ミルハーン رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、第 2924 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： https://sunnah.com/bukhari:2924

典拠の注：「最良の指揮官」のハディース

一般に最もよく知られているハディースはこうです。 ***「コンスタンティノープルは必ず開かれる。その指揮官はなんと良い指揮官であり、その軍はなんと良い軍であろうか。」*** このハディースはイマーム・アフマドが『ムスナド』に、ブハーリーが『大歴史』に、そしてこれを真正と判定したハーキムが伝えています。しかしその伝承経路は、信頼性が確かめられていないアブドゥッラー・ブン・ビシュル・アル＝ガナウィーという一人の伝承者に依存しており、そのためアルバーニーやシュアイブ・アル＝アルナウートを含む多くのハディース学者は、その伝承経路を ***弱い（ダイーフ）*** と判定しています。

学者たちは、ウンム・ハラームのハディースの「カエサルの町」はコンスタンティノープルであり、そこを攻めた最初の軍は、アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー رضي الله عنه も加わった、ヒジュラ暦 49〜52 年ごろのヤズィード・ブン・ムアーウィヤの軍であると述べています。また『サヒーフ・ムスリム』（第 2897 番・第 2920 番）は、終末の近くにタフリールとタクビールによってコンスタンティノープルが開かれることを伝えていますが、これは最後の時の出来事に関するもので、1453 年の出来事ではありません。それゆえ征服王の栄誉を弱いハディースに基づかせる必要はありません。彼の行いと奮闘だけで十分な手本なのです。

伝承の等級： ウンム・ハラームのハディース ― 真正。「最良の指揮官」のハディース ― 議論あり。多くのハディース学者はその伝承経路を弱いと判定しています。

参照：

『ムスナド・アフマド』（第 18957 番）；ハーキム『補遺』；アルバーニー『弱いハディース集』（第 878 番）；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』。

教訓

イスラームの歴史を愛するからといって、慎重さを欠いて何かを預言者 ﷺ に帰してよいわけではありません。真正なものだけで十分な励ましとなります。

城壁の下のアブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー

歴史の注：世界の果ての教友

アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに到着したとき、最初にその家に滞在された教友です。高齢にもかかわらず、彼はムアーウィヤの時代にコンスタンティノープルを包囲したムスリム軍に加わりました。彼はそこで病に倒れ、自分の遺体をできるだけ敵地の奥まで運び、町の城壁の近くに葬るよう遺言しました。

8世紀後、コンスタンティノープルが開かれた後、スルタン・メフメトは、今日***エユップ***として知られる地区の、アブー・アイユーブの墓と信じられた場所にモスクと廟を建てました。オスマンの伝承によれば、その墓は師シャイフ・アクシェムセッディンが見つけたといいます。発見の話は後代の史料によるものですが、エユップ・スルタン・モスクは深く敬われる場所となり、後のオスマン・スルタンたちは即位の際にそこで剣を帯びました。

伝承の等級： アブー・アイユーブがコンスタンティノープル遠征に加わり、そこで亡くなったことは歴史書に伝えられていますが、アクシェムセッディンによる墓の発見は後代の伝承です。

参照：
イブン・サアド『大伝記集』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；オスマンの伝承。

教訓

イスラームを伝える情熱に年齢はありません。年老いた教友は、目標にできるだけ近い場所に葬られることを願いました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ルメリ・ヒサル——海峡を断つ城塞

歴史の注：4か月の築城

ヒジュラ暦856年（西暦1452年）の春、スルタン・メフメトはボスポラス海峡のヨーロッパ側の岸に、曾祖父バヤズィト1世が築いたアナドル・ヒサルの向かいに、大きな城塞を築きました。それは***ボアズケセン***（「海峡を断つもの」）と名づけられ、今日では***ルメリ・ヒサル***として知られています。史料によれば、何千人もの労働者と、それぞれ一つの塔の建設を担った重臣たちによって、約4か月で完成しました。

両岸に大砲を置くことで、黒海からコンスタンティノープルへ援軍を運ぶ船を止めることができました。ビザンツ皇帝コンスタンティノス11世は抗議の使者を送りましたが、スルタンは自分の土地に築いているのだと答えました。

伝承の等級：トゥルスン・ベイ、アーシュクパシャザーデ、ネシュリーのオスマン年代記や、ドゥーカス、スフランツェス、クリトブロス、ニコロ・バルバロなどビザンツやイタリアの目撃者の記録といった歴史書に、ハディース学者の基準による伝承経路なしで伝えられています。歴史として受け入れられていますが、真正なハディースのように典拠（フッジャ）として用いることはできません。

参照：

トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』。

周到な準備はアッラーの命令の一部です。

© 2026年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

戦利品章 8:60

وَأَعِدُّواْ لَهُم مَّا ٱسۡتَطَعۡتُم مِّن قُوَّةٖ وَمِن رِّبَاطِ ٱلۡخَيۡلِ تُرۡهِبُونَ بِهِۦ عَدُوَّ ٱللَّهِ وَعَدُوَّكُمۡ وَءَاخَرِينَ مِن دُونِهِمۡ لَا تَعۡلَمُونَهُمُ ٱللَّهُ يَعۡلَمُهُمۡۚ وَمَا تُنفِقُواْ مِن شَيۡءٖ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ يُوَفَّ إِلَيۡكُمۡ وَأَنتُمۡ لَا تُظۡلَمُونَ ٦٠

かれらに対して，あなたの出来る限りの（武）力と，多くの繋いだ馬を備えなさい。それによってアッラーの敵，あなたがたの敵に恐怖を与えなさい。かれら以外の者にも，またあなたがたは知らないがアッラーが知っておられる者にも。あなたがたが，アッラーの道のために費やす凡てのものは，十分に返済され，あなたがたは不当に扱われることはないのである。

訳：三田了一 — quran.com/8:60

教訓

アッラーにお任せすることは、準備を捨てることではありません。征服王は町を攻める前に、まずその命綱を断ちました。

ウルバンの大砲と艦隊

歴史の注：新しい技術

ハンガリーまたはトランシルヴァニア出身の***ウルバン***（オルバン）という大砲鋳造師は、はじめビザンツ皇帝に仕えようとしましたが、皇帝は彼に報酬を払えませんでした。そこで彼はスルタン・メフメトのもとに来て、スルタンは彼に多額の報酬を与えました。ウルバンはエディルネで巨大な大砲を鋳造し、ドゥーカスによれば、それをコンスタンティノープルまで引くのに何十組もの牛と何百人もの人が必要だったといいます。

大砲のほかに、スルタンは大艦隊を造り、国中から兵を集めました。現代の歴史家はオスマン軍を5万から8万人と見積もっています――古い史料の数字ははるかに大きいものです――が、町の守備兵はジェノヴァやヴェネツィアの志願兵を含めても約7千から8千人にすぎませんでした。

伝承の等級： ウルバンの大砲の存在はいくつかの同時代史料で確かめられますが、その大きさや兵の数は史料によって異なります。

参照：

ドゥーカス『ビザンツ史』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』；スフランツェス『小年代記』。

教訓

ムスリムはかつて知識と技術の先駆者でした。征服王は、どこから来たものであれ専門知識を重んじ、それを大きな目的のために用いました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

テオドシウスの城壁と金角湾の鎖

歴史の注：包囲の始まり

包囲は1453年4月初め（ヒジュラ暦857年ラビーウ・アル＝アーヒル月）に始まりました。陸側では、コンスタンティノープルは千年のあいだ破られたことのない、堀のある幾重もの***テオドシウスの城壁***に守られていました。海側では、***金角湾***の港の入り口が大きな鉄の鎖で閉ざされ、オスマンの船は入ることができませんでした。

オスマンの大砲は昼も夜も城壁を砲撃しましたが、守備兵は毎晩その損傷を修理しました。いくつかの攻撃は大きな損害を出して失敗し、4月20日には4隻のキリスト教徒の船がオスマンの封鎖を突破して港に入りました。スルタンはあまりに怒り、馬に乗ったまま海に入ったと伝えられています。

伝承の等級：トゥルスン・ベイ、アーシュクパシャザーデ、ネシュリーのオスマン年代記や、ドゥーカス、スフランツェス、クリトブロス、ニコロ・バルバロなどビザンツやイタリアの目撃者の記録といった歴史書に、ハディース学者の基準による伝承経路なしで伝えられています。歴史として受け入れられていますが、真正なハディースのように典拠（フッジャ）として用いることはできません。

参照：

ニコロ・バルバロ『包囲戦の日記』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』。

戦いが長引くとき、アッラーの使徒 ﷺ は敵に向き合う作法を教えられました。それを望んではならないが、出会ったときには忍耐せよ、と。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第1742番

وَحَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ رَافِعٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنَا ابْنُ جُرَيْجٍ، أَخْبَرَنِي مُوسَى، بْنُ عُقْبَةَ عَنْ أَبِي النَّضْرِ، عَنْ كُتَابٍ، رَجُلٍ مِنْ أَسْلَمَ مِنْ أَصْحَابِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم يُقَالُ لَهُ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي أَوْفَى فَكَتَبَ إِلَى عُمَرَ بْنِ عُبَيْدِ اللَّهِ حِينَ سَارَ إِلَى الْحَرُورِيَّةِ يُخْبِرُهُ أَنَّ

رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَانَ فِي بَعْضِ أَيَّامِهِ الَّتِي لَقِيَ فِيهَا الْعَدُوَّ يَنْتَظِرُ حَتَّى إِذَا مَالَتِ الشَّمْسُ قَامَ فِيهِمْ فَقَالَ " يَا أَيُّهَا النَّاسُ لاَ تَتَمَنَّوْا لِقَاءَ الْعَدُوِّ وَاسْأَلُوا اللَّهَ الْعَافِيَةَ فَإِذَا لَقِيتُمُوهُمْ فَاصْبِرُوا وَاعْلَمُوا أَنَّ الْجَنَّةَ تَحْتَ ظِلاَلِ السُّيُوفِ " .

訳：

アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファーの手紙より：アッラーの使徒 ﷺ は敵と遭遇したある日、太陽が南中を過ぎるまで待ち、それから人々の中に立ってこう言われました。 *「人々よ、敵との遭遇を望んではならない。アッラーに平安を求めなさい。しかし敵と遭遇したなら、忍耐しなさい。そして楽園は剣の陰の下にあることを知りなさい。」*

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ムハンマド・ブン・ラーフィウ ← アブドゥッラッザーク ← イブン・ジュライジ ← ムーサー・ブン・ウクバ ← アブー・アン＝ナドル・サーリム ← アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、第 1742 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に次いで最も真正なハディース集『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠： https://sunnah.com/muslim:1742a

教訓

初めの段階での失敗は、やめる理由にはなりません。忍耐は、しばしば忘れられる勝利の鍵なのです。

丘を越えた船

歴史の注：1453年4月22日

鉄の鎖が金角湾の入り口をふさいでいたため、スルタン・メフメトは敵が思いもよらないことを計画しました。1453年4月21日から22日にかけての夜、約70隻の船が、油と脂を塗った木の道の上を引かれてガラタの後ろの丘を越え、鎖の内側の金角湾に下ろされました。

その朝、コンスタンティノープルの人々は、自分たちの港の中にオスマンの船がいるのを見て驚きました。金角湾沿いの海側の城壁は無防備になり、守備兵はただでさえ少ない兵力を分けなければなりませんでした。この出来事はバルバロやドゥーカスなどキリスト教徒の目撃者によって記録されていますが、船の数や正確な経路の細部は異なっています。

伝承の等級： いくつかの同時代の目撃者の史料で確かめられますが、船の数や正確な経路は異なります。

参照：

ニコロ・バルバロ『包囲戦の日記』；ドゥーカス『ビザンツ史』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』。

教訓

いつもの道が閉ざされたとき、創造的な心は別の道を見つけます。勝利はしばしば、違う考え方をする勇気から生まれるのです。

© 2026年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウルバトル・ハサンと殉教者たち

典拠の注：歴史と伝説のあいだ

トルコでとても有名な話によれば、*ウルバトル・ハサン*というイェニチェリが、矢の雨を受けて殉教する前に、コンスタンティノープルの城壁に最初にオスマンの旗を立てたといいます。この話は主要な同時代史料には見られず、ずっと後の記録にだけ現れるもので、歴史家はこれを伝承または伝説とみなしています。

確かなのは、50 日を超える包囲のあいだ、城壁への攻撃で多くの兵士が倒れたということです。後にスルタンに仕えたギリシア人の歴史家クリトブロスは、この戦いにおける両軍の勇敢さを描いています。

伝承の等級： ウルバトル・ハサンの話は、同時代史料で確かめられない後代の伝承です。

参照：

クリトブロス『征服王メフメトの歴史』；オスマンの伝承。

アッラーは、殉教を切に願うすべての心の誠実さを知っておられます。人々がその名を覚えていようといまいと。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1909 番

حَدَّثَنِي أَبُو الطَّاهِرِ، وَحَرْمَلَةُ بْنُ يَحْيَى، - وَاللَّفْظُ لِحَرْمَلَةَ - قَالَ أَبُو الطَّاهِرِ أَخْبَرَنَا وَقَالَ، حَرْمَلَةُ حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ وَهْبٍ، حَدَّثَنِي أَبُو شُرَيْحٍ، أَنَّ سَهْلَ بْنَ أَبِي أُمَامَةَ بْنِ سَهْلِ، بْنِ حُنَيْفٍ حَدَّثَهُ عَنْ أَبِيهِ، عَنْ جَدِّهِ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ " مَنْ سَأَلَ اللَّهَ الشَّهَادَةَ بِصِدْقٍ بَلَّغَهُ اللَّهُ مَنَازِلَ الشُّهَدَاءِ وَإِنْ مَاتَ عَلَى فِرَاشِهِ " .

訳：

サフル・ブン・アビー・ウマーマ・ブン・サフル・ブン・フナイフが、父から、その父が祖父から伝えるところによると、預言者 ﷺ はこう言われました。*「誠実にアッラー*

に殉教を願う者は、たとえ寝床の上で死んでも、アッラーは彼を殉教者たちの位に至らせられる」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・アッ＝ターヒルとハルマラ・ブン・ヤフヤー ← アブドゥッラー・ブン・ワフブ ← アブー・シュライフ・アブドゥッラフマーン・ブン・シュライフ ← サフル・ブン・アビー・ウマーマ ← アブー・ウマーマ・ブン・サフル ← サフル・ブン・フナイフ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』統治の書、第 1909 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に次いで最も真正なハディース集『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠： https://sunnah.com/muslim:1909

教訓

真の英雄の多くは名前を知られていません。たとえ歴史が忘れても、アッラーはすべての誠実な犠牲を記録しておられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 857 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月 20 日の夜明け

歴史の注：最後の総攻撃

最後の総攻撃の前、スルタン・メフメトは軍に断食と悔悟を命じ、学者やシャイフたちは陣営を回って士気を高めました。ヒジュラ暦 857 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月 20 日（西暦 1453 年 5 月 29 日）火曜日の未明、いくつかの波に分かれた大攻撃が始まりました。激しい戦いの後、城壁の最も重要な部分を守っていたジェノヴァの指揮官ジョヴァンニ・ジュスティニアーニが重傷を負って退き、防衛線は崩れ始めました。

オスマン軍は町に入りました。最後のビザンツ皇帝***コンスタンティノス 11 世パレオロゴス***は戦いの中で戦死し、その遺体は確かには特定されませんでした。50 日を超える包囲の後、コンスタンティノープルは開かれ、21 歳の若いスルタンはその日の午後に町に入りました。

伝承の等級： 日付と主な出来事は多くの同時代史料で確かめられます。

参照：

ニコロ・バルバロ『包囲戦の日記』；ドゥーカス『ビザンツ史』；トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；スフランツェス。

信者たちが待ち望む勝利は、アッラーからの賜物です。

戦列章 61:13

وَأُخۡرَىٰ تُحِبُّونَهَاۖ نَصۡرٞ مِّنَ ٱللَّهِ وَفَتۡحٞ قَرِيبٞۗ وَبَشِّرِ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ١٣

またあなたがたが好む，外（の恩恵）を与えられる。アッラーの御助けと，速かな勝利である。だからこの吉報を信者たちに伝えなさい。

訳：三田了一 — quran.com/61:13

教訓

勝利は、断食と悔悟と絶え間ない努力の後に訪れました。それは人間の力の結果だけではなく、アッラーの賜物なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アヤソフィア——事実と議論のあいだ

歴史の注：教会がモスクに

西暦 6 世紀にユスティニアヌス帝が建てた*アヤソフィア*（ハギア・ソフィア）は、東方キリスト教世界で最大の教会でした。町が開かれた後、スルタン・メフメトはそれをモスクに改め、1453 年 6 月 1 日にそこで最初の金曜礼拝が行われました。ミナレットは後に加えられ、モザイクの多くは破壊されずに覆われました。

この問題は今日でも議論されています。一部の学者は、武力で（アンワタン）開かれた町では統治者がその建物を用いることができると論じます。スルタンが自分の財産でその建物を買い取り、ワクフ（寄進）にしたという伝えもありますが、それは後代のもので確かではありません。他の学者は、エルサレムの住民の教会を彼らに残したウマル・ブン・アル＝ハッターブの誓約を思い起こさせます。アヤソフィアはその後、博物館（1934 年）となり、再びモスク（2020 年）とされました。

*伝承の等級：*アヤソフィアがモスクに改められたことは確かですが、スルタンが自分の財産で買い取ったという伝えは確かではありません。

参照：

トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』；トルコ宗務庁財団『イスラーム百科事典』。

教訓

歴史は、議論のある事柄も含めて公正に語られなければなりません。コンスタンティノープルが開かれたことを誇りにしつつ、他者の見方を理解することもできるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

町の人々への公正

歴史の注：ゲンナディオスとガラタ

当時の戦争の慣習にしたがい、兵士たちには 3 日間町で戦利品を取ることが許され、多くの住民が捕虜となりました。キリスト教徒の史料はその日々の大きな苦しみを描いており、ここにそれを正直に記します。その後スルタンは略奪をやめるよう命じ、捕虜の一部を身代金で解放し、逃げた人々に家へ戻るよう呼びかけました。

スルタンは 1454 年 1 月に正教会の学者***ゲンナディオス・スコラリオス***をコンスタンティノープル総主教に任じ、正教徒の共同体に信教の自由と自らの事柄を治める権利を与えました。ガラタのジェノヴァ人には、彼らの財産、教会、商いを守る保証状（アヒドナーメ）を与えました。また町を生き返らせるため、ほかの州からムスリム、キリスト教徒、ユダヤ教徒の住民を移住させました。

伝承の等級： トゥルスン・ベイ、アーシュクパシャザーデ、ネシュリーのオスマン年代記や、ドゥーカス、スフランツェス、クリトブロス、ニコロ・バルバロなどビザンツやイタリアの目撃者の記録といった歴史書に、ハディース学者の基準による伝承経路なしで伝えられています。歴史として受け入れられていますが、真正なハディースのように典拠（フッジャ）として用いることはできません。

参照：

クリトブロス『征服王メフメトの歴史』；ドゥーカス『ビザンツ史』；ガラタのアヒドナーメ（1453 年）。

クルアーンは、宗教に強制がないことをはっきりと述べています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

雌牛章 2:256

لَآ إِكۡرَاهَ فِي ٱلدِّينِۖ قَد تَّبَيَّنَ ٱلرُّشۡدُ مِنَ ٱلۡغَيِّۚ فَمَن يَكۡفُرۡ بِٱلطَّٰغُوتِ وَيُؤۡمِنۢ بِٱللَّهِ فَقَدِ ٱسۡتَمۡسَكَ بِٱلۡعُرۡوَةِ ٱلۡوُثۡقَىٰ لَا ٱنفِصَامَ لَهَاۗ وَٱللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ٢٥٦

宗教には強制があってはならない。正に正しい道は誤りから明らかに（分別）されている。それで邪神を退けてアッラーを信仰する者は，決して壊れることのない，堅固な取っ手を握った者である。アッラーは全聴にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:256

そして公正な統治者は、アッラーの御許で尊い地位を得ます。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1827 番

حَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، وَزُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، وَابْنُ، نُمَيْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، بْنُ عُيَيْنَةَ عَنْ عَمْرٍو، - يَعْنِي ابْنَ دِينَارٍ - عَنْ عَمْرِو بْنِ أَوْسٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عَمْرٍو، قَالَ ابْنُ نُمَيْرٍ وَأَبُو بَكْرٍ يَبْلُغُ بِهِ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم وَفِي حَدِيثِ زُهَيْرٍ قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم " إِنَّ الْمُقْسِطِينَ عِنْدَ اللَّهِ عَلَى مَنَابِرَ مِنْ نُورٍ عَنْ يَمِينِ الرَّحْمَنِ عَزَّ وَجَلَّ وَكِلْتَا يَدَيْهِ يَمِينٌ الَّذِينَ يَعْدِلُونَ فِي حُكْمِهِمْ وَأَهْلِيهِمْ وَمَا وَلُوا " .

訳：

アブドゥッラー・ブン・アムルによると、アッラーの使徒 ﷺ はこう言われました。

「まことに公正な人々は、アッラーの御許で、偉大で威厳ある慈悲深きお方の右側にある光の説教壇の上にいる――そのお方の両手はともに右である――彼らは裁きにおいて、家族に対して、そして任されたことにおいて公正であった人々である。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ、ズハイル・ブン・ハルブ、イブン・ヌマイル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← アムル・ブン・アウス ← アブドゥッラー・ブン・アムル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』統治の書、第 1827 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に次いで最も真正なハディース集『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠： https://sunnah.com/muslim:1827

教訓

町を開くことは始まりにすぎません。その人々の心を開くには公正が必要です。征服王が開いた町は、何世紀にもわたって多くの信仰の人々の家であり続けました。

兄弟殺しの法

歴史の注：暗い側面

1451 年に即位して間もなく、スルタンのまだ赤ん坊だった異母弟*アフメト*が、将来の王位争いを防ぐために彼の命令で殺されました。彼に帰される法令集（カーヌーンナーメ）には、即位したスルタンが「世界の秩序のために」（ニザーム・ウ・アーレム）兄弟を殺してもよいという条項があり、学者の大多数がそれを認めたと主張しています。

この慣行は、後の世代で多くの罪のないオスマンの王子が殺される原因となり、17 世紀初めにようやく廃止されました。その法令集の本文の真正性については歴史家のあいだで議論がありますが、アフメトの殺害と兄弟殺しの慣行そのものは歴史上確かです。ムスリムの血についてのシャリーアの原則に反するため、ここに正直に記します。

伝承の等級： アフメトの殺害と兄弟殺しの慣行は歴史上確かですが、法令集の正確な本文には議論があります。

参照：

『オスマン家法令集』；ドゥーカス『ビザンツ史』；ハリル・イナルジク『オスマン帝国』。

アッラーの使徒 ﷺ は、ムスリムの血は三つの理由のいずれかによらなければ許されないと明言されました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 6878 番

حَدَّثَنَا عُمَرُ بْنُ حَفْصٍ، حَدَّثَنَا أَبِي، حَدَّثَنَا الأَعْمَشُ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ مُرَّةَ، عَنْ مَسْرُوقٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ، قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم " لاَ يَحِلُّ دَمُ امْرِئٍ مُسْلِمٍ يَشْهَدُ أَنْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ وَأَنِّي رَسُولُ اللَّهِ إِلاَّ بِإِحْدَى ثَلاَثٍ النَّفْسُ بِالنَّفْسِ وَالثَّيِّبُ الزَّانِي، وَالْمَارِقُ مِنَ الدِّينِ التَّارِكُ الْجَمَاعَةَ ".

訳：

アブドゥッラー（・ブン・マスウード）は言いました。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。*「アッラーのほかに神はなく、私がアッラーの使徒であると証言するムスリムの血*

は、三つのうちの一つによらなければ許されない。命には命を、既婚者の姦通者、そして宗教から離れ共同体を捨てた者である。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウマル・ブン・ハフス・ブン・ギヤース ← ハフス・ブン・ギヤース ← スライマーン・アル＝アアマシュ ← アブドゥッラー・ブン・ムッラ ← マスルーク・ブン・アル＝アジュダア ← アブドゥッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』血の代償の書、第 6878 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： https://sunnah.com/bukhari:6878

教訓

指導者の偉大さは、その過ちを正当化しません。征服王を愛することは、彼のしたすべてを認めることではないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イスタンブールの建設者、学問を愛した人、そしてその死

歴史の注：1453〜1481 年

スルタン・メフメトはイスタンブールを国の首都としました。8 つの高等マドラサ（サフン・セマーン）、病院、公共の給食所、図書館を備えた複合施設（キュッリイェ）とともに***ファーティフ・モスク***を建て、トプカプ宮殿も築きました。彼は学者、詩人、科学者を集め——その中にはサマルカンドの天文学者***アリー・クシュチュ***もいました——学術書の翻訳を後援しました。

彼は軍事遠征を続けました。セルビア（1459 年）、モレア（1460 年）、トレビゾンド（1461 年）、ボスニア（1463 年）、イタリアのオトラント（1480 年）です。しかし、ベオグラード（1456 年）やロードス（1480 年）の包囲のように失敗したこともありました。彼はヒジュラ暦 886 年ラビーウ・アル＝アウワル月 4 日（西暦 1481 年 5 月 3 日）、目的の知られていない新しい遠征に出たところで、ゲブゼ近くのヒュンキャル・チャユルで亡くなりました。毒殺されたという説もありますが、確かめることはできません。彼はファーティフ・モスクに葬られました。

伝承の等級：トゥルスン・ベイ、アーシュクパシャザーデ、ネシュリーのオスマン年代記や、ドゥーカス、スフランツェス、クリトブロス、ニコロ・バルバロなどビザンツやイタリアの目撃者の記録といった歴史書に、ハディース学者の基準による伝承経路なしで伝えられています。歴史として受け入れられていますが、真正なハディースのように典拠（フッジャ）として用いることはできません。

参照：

トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』；クリトブロス『征服王メフメトの歴史』；トルコ宗務庁財団『イスラーム百科事典』「メフメト 2 世」。

教訓

真の征服者は城壁を崩すだけでなく、マドラサや病院や図書館も建てます。勝利の後には建設が続かなければなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

検討すべき物語と数字

典拠の注：事実と伝説のあいだ

征服王の物語には、慎重な検討を要する点がいくつかあります。***第一に***、「その指揮官はなんと良い指揮官であろうか」というハディースの伝承経路には議論があり、彼の栄誉をそれに基づかせる必要はありません。***第二に***、ウルバトル・ハサンが旗を立てた話は後代の伝承です。***第三に***、征服王の兵士は誰一人として成年以来義務の礼拝を欠かしたことがなかったとか、スルタンだけがスンナの定時礼拝を欠かしたことがなかったという話は、歴史的な典拠のない現代の物語です。

第四に、古い史料の兵の数——数十万を語るものもあります——は、現代の歴史家の見積もりをはるかに超えています。***第五に***、スルタンが自分の財産でアヤソフィアを買い取ったという話や、彼が毒殺されたという話は確かめることができません。確かなのは、周到な準備、ルメリ・ヒサルの建設、金角湾に運ばれた船、1453 年 5 月 29 日の町の開城、そして町の人々に与えた信教の自由の政策です。

伝承の等級： 主な出来事は確かですが、広く知られた細部の多くは伝承、伝説、または現代の物語です。

参照：

トゥルスン・ベイ、ドゥーカス、クリトブロス、バルバロ、スフランツェス、および現代の歴史研究の比較。

教訓

征服王の偉大さは、作り話を必要としません。真正な事実だけで十分な手本となるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

征服王の物語の典拠

この表は、読者が真正なものと単に有名なだけのものを区別できるよう、それぞれの物語の典拠と等級をまとめたものです。

物語	典拠	等級
モッラー・ギュラーニーとアクシェムセッディンの教育	タシュキョプリュザーデ；年代記	歴史
アッラーの言葉を高める意図	『サヒーフ・ブハーリー』2810	真正
カエサルの町への最初の軍	『サヒーフ・ブハーリー』2924	真正
「なんと良い指揮官」	『ムスナド・アフマド』	議論あり；多くは弱いと判定
アクシェムセッディンによるアブー・アイユーブの墓の発見	オスマンの伝承	後代の伝承
ルメリ・ヒサルの建設（1452年）	トゥルスン・ベイ；ドゥーカス；クリトブロス	確か
ウルバンの大砲	ドゥーカス；クリトブロス	確か；大きさは諸説
敵に会うことを望んではならない	『サヒーフ・ムスリム』1742	真正
丘を越えた船（4月22日）	バルバロ；ドゥーカス；クリトブロス	確か
ウルバトル・ハサン	後代の記録	伝説
誠実に殉教を願う	『サヒーフ・ムスリム』1909	真正
町の開城（1453年5月29日）	多くの同時代史料	確か
アヤソフィアのモスク化	トゥルスン・ベイ；ドゥーカス	確か
スルタンによるアヤソフィアの買い取り	後代の伝え	確かではない

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠	等級
ゲンナディオスとガラタのアヒドナーメ	クリトブロス；アヒドナーメ文書	確か
公正な者は光の高座に	『サヒーフ・ムスリム』1827	真正
アフメトの殺害と兄弟殺しの法	法令集；ドゥーカス	確か；本文は議論あり
ムスリムの血は三つの場合のみ許される	『サヒーフ・ブハーリー』6878	真正
征服王の毒殺	さまざまな説	不確か

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物・場所・年表

人物	役割
ムラト2世	征服王の父；第6代オスマン・スルタン
モッラー・ギュラーニー	征服王の師；厳格な学者
シャイフ・アクシェムセッディン	征服王の精神的な師
アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー رضى الله عنه	コンスタンティノープルの城壁の下で亡くなった教友
ウルバン	巨大な大砲の鋳造師
コンスタンティノス11世	最後のビザンツ皇帝
ジョヴァンニ・ジュスティニアーニ	町を守ったジェノヴァの指揮官
ゲンナディオス・スコラリオス	征服王が任じた正教会総主教
アリー・クシュチュ	征服王の宮廷の天文学者

場所	出来事
エディルネ	征服王の生地；イスタンブール以前の首都
ルメリ・ヒサル	1452年に築かれた城塞
テオドシウスの城壁	コンスタンティノープルの陸の城壁
金角湾	鎖で閉ざされた港
アヤソフィア	1453年6月1日にモスクとなる
エユップ	アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリーの廟
ファーティフ・モスク	学問の複合施設と征服王の廟

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年	出来事
ヒジュラ暦 49〜52 年ごろ	コンスタンティノープル包囲；アブー・アイユーブ死去
835 年／1432 年	エディルネで征服王誕生
848 年／1444 年	最初の即位；ヴァルナの戦い
855 年／1451 年	二度目の即位
856 年／1452 年	ルメリ・ヒサルの建設
857 年／1453 年	コンスタンティノープル開城（5 月 29 日）
858 年／1454 年	ゲンナディオス総主教の任命
860 年／1456 年	ベオグラード包囲の失敗
886 年／1481 年	ゲブゼ近くで死去

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

征服王メフメト 2 世についてのよくある質問

この章では、征服王メフメト 2 世についてよく尋ねられる質問に答えます。答えは簡潔で、詳細はそれまでの章にあります。

1. 征服王メフメト 2 世とは誰ですか？

ムラト 2 世の子で、西暦 1453 年にコンスタンティノープルを開いた第 7 代オスマン・スルタンです。

2. 「ファーティフ」という称号の意味は？

「開く者・征服王」です。コンスタンティノープルの町を開いたためです。

3. コンスタンティノープルを開いたとき何歳でしたか？

約 21 歳でした。

4. 彼の師は誰ですか？

モッラー・ギュラーニーやシャイフ・アクシェムセッディンなどです。

5. 「その指揮官はなんと良い指揮官であろうか」というハディースは真正ですか？

議論があり、多くのハディース学者はその伝承経路を弱いと判定しています。カエサルの町についての真正なハディースは、『サヒーフ・ブハーリー』のウンム・ハラームのハディースです。

6. ルメリ・ヒサルとは何ですか？

ボスポラス海峡を押さえるために 1452 年に彼が築いた城塞です。

7. 船はどのように金角湾に入ったのですか？

ガラタの後ろの丘を越えて引かれ、鎖の内側に下ろされました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

8. コンスタンティノープルはいつ開かれましたか？

ヒジュラ暦857年ジュマーダー・アル＝ウーラー月20日（西暦1453年5月29日）です。

9. ウルバトル・ハサンの話は本当ですか？

同時代史料で確かめられない後代の伝承です。

10. キリスト教徒をどのように扱いましたか？

ゲンナディオスを総主教に任じ、信教の自由を与えましたが、開城直後の数日は苦しみをもたらしました。

11. 彼は過ちを犯しましたか？

はい。赤ん坊の異母弟の殺害や兄弟殺しの法などです。

12. 彼の墓はどこにありますか？

イスタンブールのファーティフ・モスクにあります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

征服王の物語は、周到な準備、失敗のなかでの忍耐、違う考え方をする勇気によって、8 世紀のあいだ開かれなかった町を開いた一人の若者の物語です——その物語には、正直に認めなければならない過ちも含まれていますが。

教訓	征服王の物語から
正しい意図	学者による教育；『サヒーフ・ブハーリー』2810
ハディースへの慎重さ	カエサルの町のハディース；『サヒーフ・ブハーリー』2924
周到な準備	ルメリ・ヒサルと大砲；戦利品章 8:60
敵を前にした忍耐	初期の失敗；『サヒーフ・ムスリム』1742
創造的な発想	丘を越えた船
殉教者の誠実さ	倒れた兵士たち；『サヒーフ・ムスリム』1909
勝利はアッラーから	1453 年 5 月 29 日；戦列章 61:13
すべての人への公正	ゲンナディオスとガラタ；雌牛章 2:256；『サヒーフ・ムスリム』1827
ムスリムの血は尊い	兄弟殺しの法；『サヒーフ・ブハーリー』6878

征服王の学ぶ熱意、準備の周到さ、試練のなかでの忍耐にならい、同時にその過ちからも学びましょう。

インシャーアッラー、『イスラームの英雄』シリーズは、アンダルスのムスリムを救ったアルジェリアの提督オルチ・レイスの物語へと続きます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンと注釈

聖クルアーン、ウスマーン版の正書法と三田了一訳。https://quran.com

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:256；戦利品章 8:60；戦列章 61:13）。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』2810、2924、6878。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1742、1827、1909。https://sunnah.com/muslim

イブン・ハジャル・アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』；ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』。

『ムスナド・アフマド』18957；アルバーニー『弱いハディース集』第 878 番。

歴史書と研究

トゥルスン・ベイ『征服の父の歴史』。

クリトブロス『征服王メフメトの歴史』。

ドゥーカス『ビザンツ史』。

ニコロ・バルバロ『1453 年コンスタンティノープル包囲戦の日記』。

タシュキョプリュザーデ『ヌウマーンの紅花』。

ハリル・イナルジク『オスマン帝国――古典期（1300〜1600 年）』。

スティーヴン・ランシマン『コンスタンティノープル陥落す』。

トルコ宗務庁財団『イスラーム百科事典』「Mehmed II」。https://islamansiklopedisi.org.tr/mehmed-ii

QURANSCIENCE.MY の関連シリーズ

『イスラームの英雄』第 1 巻：ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブから第 25 巻：オスマン・ガーズィーまで。https://quranscience.my/#pahlawan

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど1粒が7穂を付け、1穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第2588番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

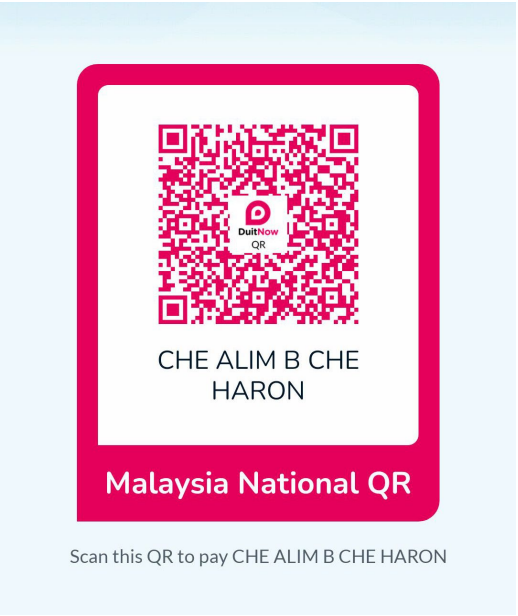
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |